

渋谷空間情報循環システムの提案 ～Come Shibu屋について～

①計画の背景・目的



計画敷地は都内有数のターミナル・ステーション「渋谷駅」を中心に広がるエリア「渋谷」である。

渋谷はメディアなどで「若者の街」として有名で、渋谷駅を中心に毎日のように多くの人が集まり、人だけでなく建物や看板・店などの入れ替えが早い、常に変化している街であると言える。

渋谷の流れは台風に似ていて、渋谷駅が台風目であり、そこから色々な方向へ人やものが流れ出、そして渋谷駅へ帰っていく。流れのある街にとって大切なのは常に「人」の出入りがあることであると私は考える。だから台風のような渋谷は常に新しく変化する街と言える。

渋谷は外から来る人が多い街のように思えるが、実際の渋谷は新宿や池袋とは違い住宅地に囲まれている。だから、渋谷の流れを作っている人の存在は外だけでなく、内なる存在もある。渋谷は内と外の流れによって常に変化する街として今の渋谷が成り立っている。

だから渋谷は決して若者だけの街ではない。確かに渋谷は若者の街として有名で、東京近郊都市や全国から多くの若者が集まるが、それだけではない。渋谷には様々な立場の人が集まる。住民から始まり学生、サラリーマン、OL、老人、観光客に取材陣など、その目的は様々だ。渋谷は年齢のボーダーラインのない街なのである。

そんな渋谷を色々な角度で調査した結果、渋谷は奥が深い街で、メディアなどには表現できないほどの数え切れない特徴を持つ街であることがわかった。

そこで私は、若者の街「渋谷」という今のイメージを、年齢のボーダーラインがない街「渋谷」に変えることと、外から来る人だけでなく、渋谷で生活する人が主役となって利用できる「渋谷」の街として機能するようなしくみを提案することにした。それは外から来る人にとっての観光局のような場で、住民にとっては生活を作り出すコミュニティの場となるような場所である。

そして、この場所が機能するために、「空間情報循環システム」を提案する。これはコンセプト「流動の中の固定」から考えたもので、現在、街の情報は携帯電話・インターネットなどの普及によってどんな場所でも調べて知ることができるようなくみが出来上がっている。しかし、実際のユーザーはそのしくみを上手く利用できているのだろうか？ユーザーが使いこなせない方法で渋谷の情報を発信しても、今まで同様、利用しづらいままのものになってしまう。故に、あえて従来のまま固定された場所から常に流れのある情報を発信する方法で、渋谷を活性化させようという試みをしてみることにした。それが「Come Shibu屋」である。

②計画の概要（Come Shibu屋について）

下の図は空間情報循環システムを簡略化したものである。



敷地は渋谷駅東口、宮下公園前駐輪場横、現在のビックカメラ・銀行のある場所を利用する。この場所を利用することにより、宮下公園のアクセスも良くなることにより、渋谷中心部ビル街の緑が増え、自然の憩いの場の利用がしやすくなる効果もあると考えられる。そして、なにより駅より近い立地により、住民だけでなく一般の外から来る人にとっても利用しやすい場所である。（下記1階平面図兼配置図参照）

建物は地下2階地上10階建て、SRC構造であり、Come Shibu屋（Come Shibu屋）には主に4つの機能がある。コンビニエンスストア、

公園、インフォメーションセンター、コメシブ屋オフィスの4機能である。詳しい内容の説明は以下③の設計概要・模型写真に記す。

○ コンビニエンスストア

建物全体が24時間営業であり、稼動し続ける街である渋谷のあらゆる住民に対応できるようになっている。

○ 公園・広場

公園は散策や休憩をしたり、知り合いと会話を交したりできる都市における憩いの場所である。公園広場を屋内に設けることにより、より多目的な広場の利用方法が得られる。

○ インフォメーションセンター（観光局）

レンタルサイクルとインフォメーションボードを供えている。インフォメーションボードで街の情報を得てもらい、レンタルサイクルで電車で移動することによってショートカットされてしまった街を体験してもらうことができる。

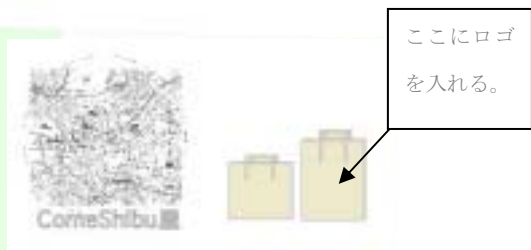
○ オフィス

ComeShibu屋の機能を回す。レンタルスペースの運営などを行っている。

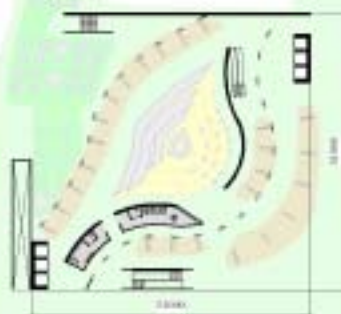
10F	Original Time Café	渋谷 Landscap Café & Book & Goods
9F	Used Book & Goods CD & DVD	
8F	Shibuya Café	
H7F	Shibuya Cafe	渋谷 イベント
7F	Furniture & Electronic Park & Night Movie	
6F		
5F		
4F	Food Coat Convenience Store Rental Cycle & Information Café	ComeShibu屋
3F		
2F		
1F	Area for Parking Bicycle ComeShibuya Office & Warehouse	
B1F		
B2F		

③設計の概要・模型写真

<1F平面図兼配置図>レンタルサイクルとその駐輪スペース、インフォメーションボードなどがある。渋谷の情報をコメシブ屋のあちこちで集めてもらい、レンタルサイクルで移動してもらうことにより、今まで徒歩で移動し切れなかった渋谷の空間を見てもらうことができる。そのための出発基地として、レンタルサイクルの駐輪場とインフォメーションボードを同じ場所に設置することにより、出発前にインフォメーションボードで目的地を再度確認してもらうことができる。また自転車にGPSなどが搭載されており、目的地までのナビを登録することができる。



自転車デザイン



屋根伏せ図



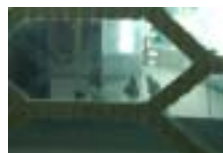
インフォメーションボード

レンタルサイクル



<B1F・B2F>地下は一般駐輪場とコメシブ屋オフィス、倉庫となっている。地下1階は主に駐輪場で、1階にて自転車メンテナンスを受けることができる。駐輪場の収容台数は400台となる。現在の宮下公園前にある駐輪場を地下に入れることにより、宮下公園までのアクセスがよくなり、渋谷にある緑空間も利用しやすくなった。現在自転車やスクーターなどで錯乱している中心に宮下公園があり、浮浪者の人影であるだけで、公園としてうまく利用されていないように見える場所が、駐輪場が地下に入ることにより、利用しやすい公園になる。地下2階はオフィスと倉庫で、コメシブ屋を運営する核が地下2階に集結している。コメシブ屋に公開してもらいたい情報などは地下2階の受付にて受け付けている。

<2階>コンビニエンスストア。コメシブ屋全体が新しいタイプの24時間営業であるコンビニエンスストアの要素がある店となっているが、2階はおなじみの通称コンビニと呼ばれる場所となっている。その品揃えは小規模なスーパーマーケット並みである。



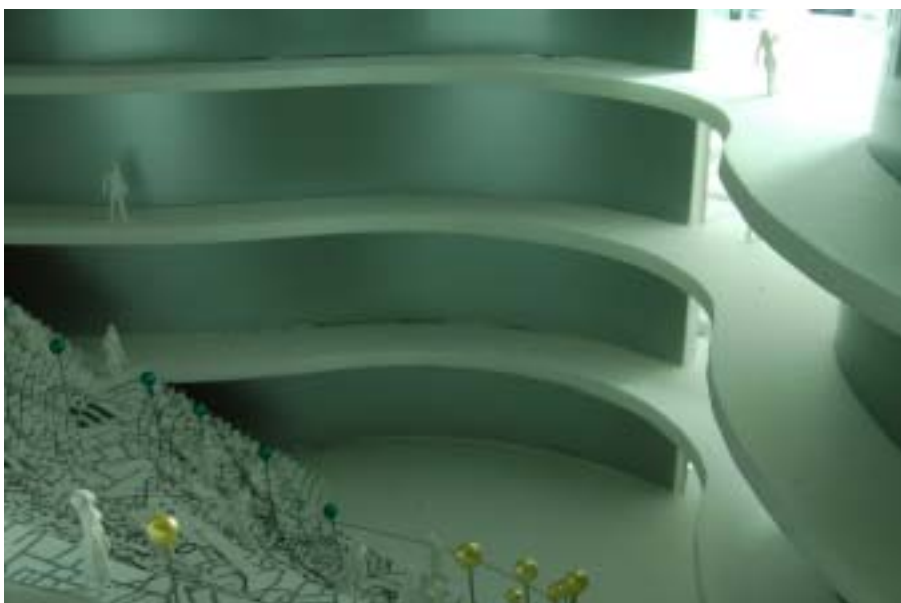
↑ 2階イメージ

<3階>フロア中央にテーブル席、周りに売店がある。売店では渋谷から集められた食文化を堪能することができる。各店は弁当を販売し、人気ある店は販売エリアを確保し続け、人気のない店はその場を退くシステムとなっている。なので、常においしい、新しい味覚を味わうことができる。テーブル席は屋内、屋外共にあり、人が集まるにぎやかな場所となっている。



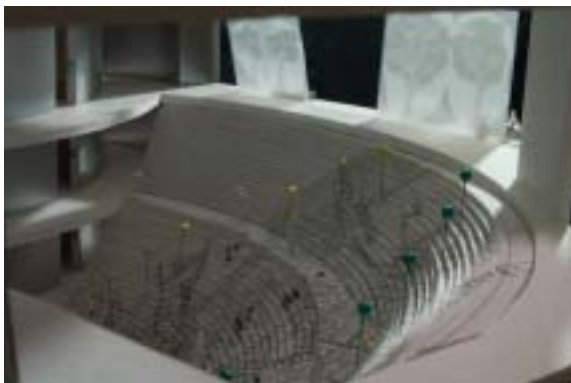
↑ 3階イメージ

<4階~7階>4階から7階は、家具・家電などの生活用品売り場となっている。渋谷での生活を作り出す上で必要な家具・家電をショールーム的に配置、生活空間の提案をしている。また、実際に自分の部屋の大きさに合わせて部屋に家具を配置したらどんな雰囲気になるかをヴァーチャルで体験することができるヴァーチャルルームがある。大型家具などの商品は郵送となり、小型家具は持ち帰ることができる。



4階から7階までの別の機能としてレンタルスペースの設置と公園としての役割がある。レンタルスペースは渋谷で活躍するアーティストの作品を展示する場所で、その展示空間の大きさはさまざまあり、大きい空間なら1フロア、小さい空間なら30×30×30センチのボックスタイプまでである。貸し出し期間は1ヶ月単位で、貸し出し料金はその大きさに応じて変化する。色んな人にオリジナル作品を展示、公開してもらい、「渋谷発」の新しいスタイルを探し作り出す場所になるだろう。

そして、4階から7階までの大きな機能として、「公園」の要素がある。昼間は運動や火を使うことはできないが、公園のような場所であり、夜は旧作になった映画やインディーズの映画作品が上映される。4階から7階にかけて広がる扇状の空間であり、その中でおしゃべりをしたり、食事をしたり、思い思いの時間を過ごす空間である。



↑ 4~7階イメージ

<中7階>渋谷で取れる四季の植物を楽しめるカフェ。実際にその草花が植えられ、癒しの空間となっている。日当たりもよく、コメシブ屋の大空間である公園を見下ろせる場所にあり、屋内のテラス席のような場所である。

<8階・9階> 8・9階は新書本と古本のある本屋になっている。9階には主に古本を8階では新書本を取り扱っている。本をじっくり選んで買うことができるように、テーブル席が用意されている。また、渋谷に関係する本や雑誌が置いてあるエリアがある。

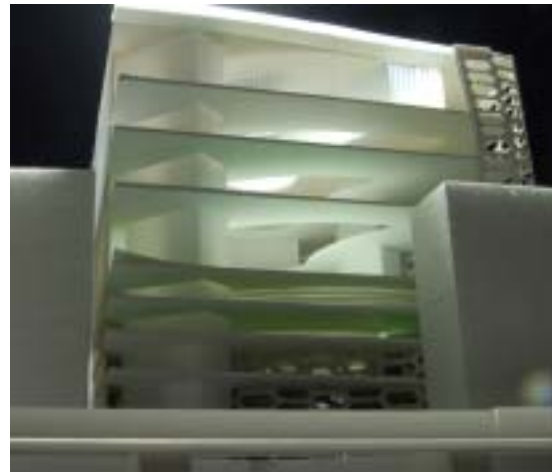
そして、音楽もこのComeshibu屋では大切な要素となっている。渋谷には多くの音楽ショップが集まる街でもあるからだ。だから渋谷の音楽ショップで売れた音楽、渋谷のカフェやクラブで流れている音楽を販売している。渋谷内の音楽ショップに協力してもらい、渋谷ランキングなども発表し販売している。

さらに、このエリアではペンなどの雑貨も扱っている。渋谷での生活を面白く、かわいらしく、スタイリッシュで渋谷らしいものにする為の雑貨や生活用品などを取り揃えている。



↑8階~10階イメージ

<10階> 10階は映写カフェとなっている。ここでは軽食が食べられ、持ち歩きが便利なものも販売されている。食事スペースは10階全部あり、10階の好きな場所で自分の時間を過ごせる。また、10階では思い思いの映像や音楽を楽しめる場所になっている。それはレンタルビデオであったり、音楽であったり、自分で撮影した映像や写真でもいい、それを映し出したりして自分の選んだビジョンを楽しむことができる。



2階平面図



3階平面図



4階平面図



5階平面図



6階平面図



7階平面図



中7階平面図



8階平面図



9階平面図



10階平面図